

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立ゆいの杜小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 106人

② 算数 106人

③ 理科 106人

#### 5 留意事項

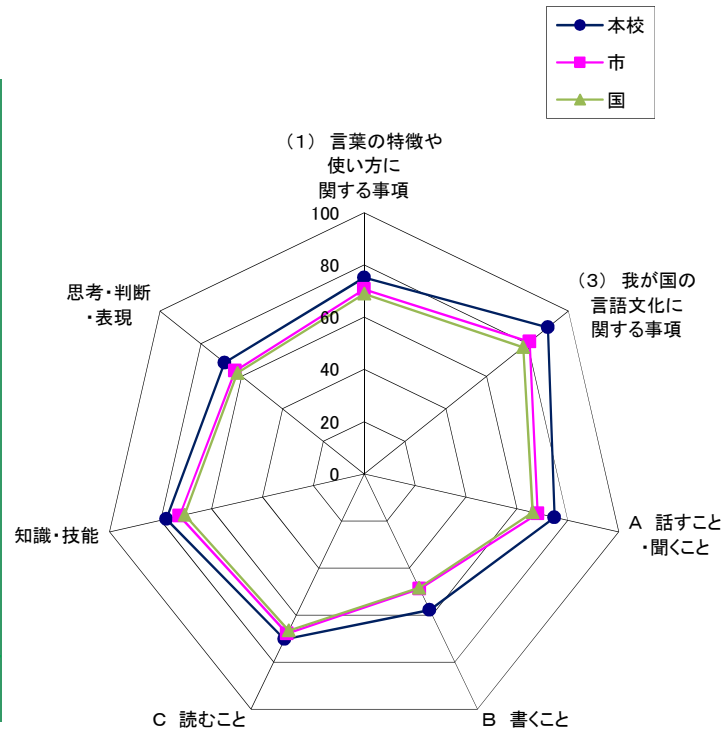
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	75.2	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	90.1	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	74.8	68.2	66.2
	B 書くこと	57.9	48.9	48.5
	C 読むこと	70.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	77.7	72.5	70.5
	思考・判断・表現	68.3	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

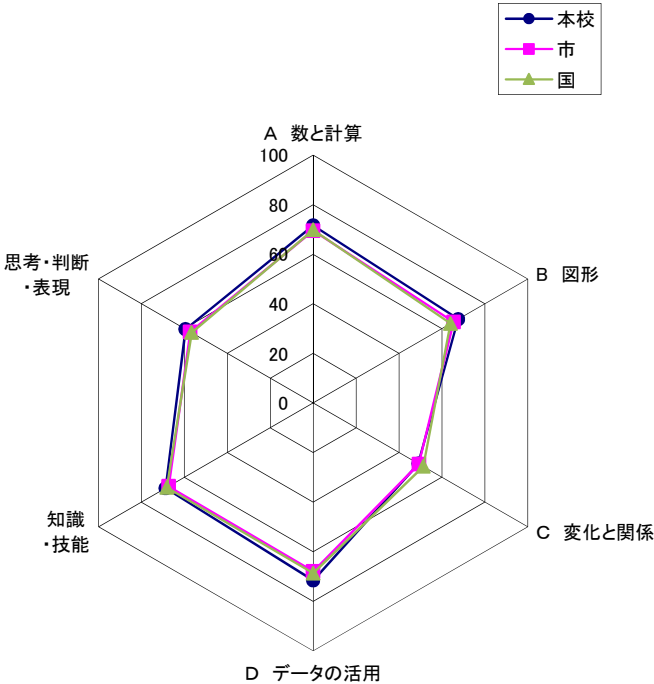
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の中には、全国の正答率を12.6ポイント上回った。 ●言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える問題では、全国の正答率をわずか0.5ポイント下回った。	・今後も漢字テストへの目標をもった取組や日々の反復練習を実践していくとともに、新出漢字のみならず既習漢字も日々のノートへの記入や作文での活用ができるようにする。 ・国語の授業のみならず日頃の授業から、相手の発言の意図を考えながら聞くことができるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くの問題では、全国の正答率を12.2ポイント上回った。	・今後も新出漢字や既習の漢字についての正しい書き順や文字のバランスの指導をノートや作文を通して指導する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題では、全国の正答率を11.7ポイント上回った。 ●上記の問題では、全国の正答率を11.7ポイント上回っているが、正答率は59.4%と低い水準であった。	・授業の発言の際に、発言の仕方の指導を行い、互いの立場や意図を明確にしながら、自分の考えをまとめて話すことができるようにする。
B 書くこと	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける問題では、全国の正答率を14.8ポイント上回った。 ●上記の問題では、全国の正答率を11.7ポイント上回っているが、正答率は52.5%と低い水準であった。	・おおむね良好な結果ではあるが、目的や意図に応じ、自分の考えの根拠を明らかにして文章を整理する活動を取り入れていきたい。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均を上回った。 ○登場人物の相互関係について、描写を基に捉える問題では、全国の正答率を9.6ポイント上回った。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題では、全国の正答率を1.0ポイント下回った。	・文中の大切な事柄に線を引いたり、文のつながりを考えたりしながら、文章全体の内容を正確に読み取れるように指導する。 ・文章全体の要点を捉え、それを短い言葉でまとめることができるように接続詞の使い方などの文章の書き方を指導する。

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	71.6	69.5	69.8
	B 図形	67.6	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	49.0	49.3	51.3
	D データの活用	71.6	68.0	68.7
観点	知識・技能	68.8	67.3	68.2
	思考・判断・表現	59.5	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

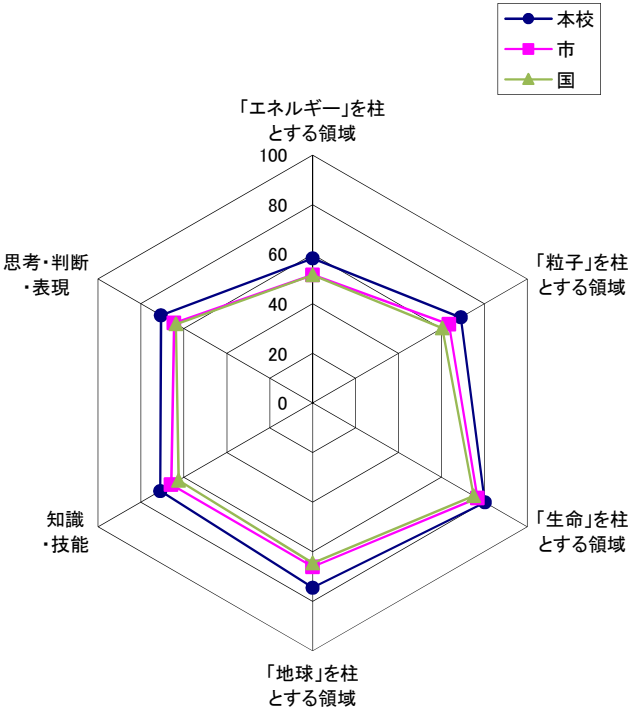
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は全国平均と比べて1.8ポイント上回っている。 ○1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く問題の平均正答率は市平均と比べて5.7ポイント上回っている。 ●カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く問題の平均正答率が低い。	・数値や場面を変えても同じような関係が成り立つか考えたり、理由を説明したりする活動を行い、数値の関係を言葉や式で表現できるようにする。
B 図形	平均正答率は全国平均と比べて3.6ポイント上回っている。 ○示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題では、平均正答率は市平均と比べて6.9ポイント上回っている。 ●示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題では平均正答率は市平均と比べて5.5ポイント下回っている。	・図形の性質を見出す力をさらに育むため、授業の中で図形の観察や構成、作図などの活動を意図的に増やして、図形の見方を考える。 ・プログラミングを考える場を増やし、プログラミングの仕組みについて理解を促す。
C 変化と関係	平均正答率は市平均と比べて2.3ポイント下回っている。 ○果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く問題では、平均正答率は市平均と比べて2.6ポイント上回っている。 ●果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題では平均正答率は市平均と比べて2.0ポイント下回っている。	・割合の問題については、基準量、比較量、割合の3つの関係についての問題などを、繰り返し学習し、理解を深めるよう、指導する。
D データの活用	平均正答率は市平均と比べて2.8ポイント上回っている。 ○分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ問題の平均正答率は市平均と比べて7.6ポイント上回っている。	・場合の数についてはよく理解されていたので、引き続き指導にあたりたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	58.4	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	69.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	80.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	74.5	66.1	64.6
観点	知識・技能	71.0	65.9	62.5
	思考・判断・表現	70.7	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を上回った。 ○実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題では全国正答率を13.7ポイント上回っている。 ●日光が直進することを理解しているか問う問題では全国正答率を上回るものの正答率が30.7ポイントと低い。	・正答率の低い問題は3年の時に学習した内容で忘れていることもあるが、反復練習して基礎的な知識が身に着くような活動を取り入れていきたい。 ・日光の性質などをよく考え、理論をもとに自分で考えることができるようにしていきたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を上回った。 ○メスシリンダーを理解しているという問題では全国正答率を19.3ポイント上回っている。 ●凍った水溶液について試してみたいことを基に、自分の考えをもち、記述する問題では全国正答率を上回るものの正答率は46.5ポイントとやや低い。	・実験をすることで、科学的な思考力を育てていきたい。 ・自分の考えをもち、理論的に記述する活動を取り入れていきたい。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市平均を上回った。 ○観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述することができる問題では全国正答率を10.7ポイント上回っている。 ●観察などで得た結果を基に、解釈し、自分の考えをもつ問題では全国正答率を上回るものの正答率はやや低い。	・自分の観察結果をまとめたり、友達の観察結果と比較したりして自分の考えをもてるような活動を取り入れていきたい。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は全国平均を上回った。 ○夜の気温の変化について、記録の結果を表したグラフを選ぶ問題では全国正答率を14.7ポイント上回っている。 ●観察などで得た結果を分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる問題では全国正答率を上回るものの正答率はやや低い。	・おおむね良好な結果ではあるが、観察して得た結果を分析したり、解釈したりして自分の考えをもつような活動を取り入れていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標をもっている」に肯定的に回答した児童の割合は、91.5%で栃木県平均を11%上回っている。昨年度、総合的な学習の時間で、自分の夢や目標に向けて、職業の内容や必要な学習について調べてまとめる学習をした成果もあるかもしれない。今後、自分の目標に向かって前向きに取り組んでいけるよう、前向きな声がけをしたり、行事や学期のめあてを通して達成感を高めたりしていきたい。

○「国語の学習は好きですか」に肯定的に回答した児童の割合は、72.6%で県平均を約11%上回っている。また、「読書が好きですか」に肯定的に回答した児童の割合は、83%と県平均を約10%上回っている。学習の基礎基本ともいえる「読むこと」を好むことが、国語のみならず各教科等の学習に波及的に効果を上げていると考えられる。今後も、多様な図書に出会う機会を設けていきたい。

○「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」に肯定的に回答した児童の割合は94.4%で県平均を約6%上回っている。また、「理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に肯定的に回答した児童の割合は80%で県平均を約9%上回っている。日ごろから、理科の授業を思考的に学び、事実や結果を分析・考察しようとする姿勢が身に付いており、学んだことを実生活に生かそうとする意欲が高いと考えられる。引き続き、児童が主体に学べるよう学習過程を工夫し、さらに科学的に思考する力を高めていきたい。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に肯定的に答えた児童の割合は、71.7%で栃木県平均を5.2%下回っている。結果から、自ら計画を立てて学習する力が弱いこと、与えられた課題以外に取り組んでいない児童が多いことが考えられる。自主的に学ぶ喜びを見出すために、学習意欲を高めるような授業構成や発問をする努力をしていきたい。また、「カテ学ウィーク」を利用して計画的に学習に取り組む機会を意図的に設け、計画的かつ自主的な家庭学習の推進を図っていきたい。

宇都宮市立ゆいの杜小学校（第6学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学年内で宿題の量や家庭学習のやり方について共通理解を図る。学級活動で家庭学習・自主学習のやり方を指導する。担任が自主学習ノートの内容や提出頻度を確認する。児童が互いの自主学習ノートを見せ合い、よいところを参考に、する話し合いを担任がリードして行う。	「自分で計画を立てて勉強していますか」の質問について、肯定的回答した児童は、71.7%であった。県の平均を5.1ポイント下回ったが全国の平均を0.6ポイント上回っている。また、「学校の授業以外の、平日の学習時間」が1時間以上である児童の割合は、69.8%であった。全国平均より10.4ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。」の肯定的割合は51.9%であった。全国より13.5ポイント下回っている。	幅広い教科で考えを伝える活動を取り入れられるようなカリキュラムマネジメントの作成	国語で身に付けた資料を用いた話し方や、話の組立てなどのスキルを、他教科でも意図的に活用する機会を増やしていく。